

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

さんぽう

# 三方よし

## 第25号

(復刊第1号)

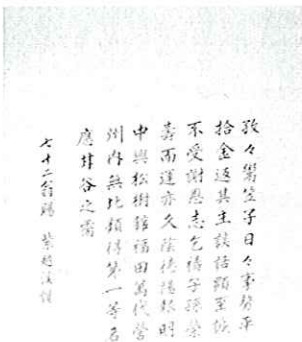
## 2004/10

### CONTENTS

**特集** 対談：滋賀CSRモデルと近江商人 高田統一氏（滋賀銀行頭取） 末永國紀氏（同志社大学経済学部教授）

三方よし理念講座の開催のお知らせ

現代の近江商人五個荘に集合—健康まちづくりシンポ—のご案内



五個荘町竜田(旧北五個荘村)の松居久右衛門家



松居久右衛門行商の図



松居久右衛門家の始祖、  
久次郎編み笠行商の図



松葉の印が入った半纏

### 「第10回 ぶらりまちかど美術館」で初公開

#### 五個荘町竜田 松居久右衛門家

五個荘町恒例のぶらりまちかど美術館・博物館の催しは、日頃非公開の商家がこの日だけは公開されることで大変な人気が高まってきています。とくに本年は近江商人の主要な商品である「着物」をテーマに、時代行列にはNPO法人「日常きものを着る習慣」のメンバーが多数参加されたこともあって、界隈は着物姿の方が非常に多い一日でした。この日に町内竜田の松居久右衛門家が地元の方の熱意と所有者のご厚意で初めて公開されました。松居久右衛門家は文化年代（1804～1817）以前に建てられ、昭和の初め、旧久邇宮家が竜田神社を参詣された時に宿泊されました。この日は一部の公開でしたが、有名な編み笠行商の図も展示されました。「星久」で知られる松居久左衛門家は、松居久右衛門家から分かれています。

松居家は、初代久次郎の正直が世間の評判となってその後大きな信用を得たのでした。

## 特集 滋賀CSRモデルと近江商人一対談

■高田 紘一 氏(滋賀銀行頭取) ■末永國紀 氏(同志社大学経済学部教授)

# 近江商人道、300年の伝統を継承 滋賀経済同友会が独自CSRモデルに援用

経済のグローバル化が、近年、進展している。そのなかで企業の役割は一層、大きくなり、その社会的な責任(CSR)は、いまや世界的な関心事となってきている。CSRの本来の意義や理念を足元の日本商業史にたどれば、近江商人道として唱えられ実践された「三方よし」を日本版CSRとして再発見するに違いない。

この商業道徳の歴史土壌を継ぐ滋賀では今春、滋賀経済同友会が「滋賀CSRモデル」を策定、発表しており、とりまとめをリードしたのが同友会代表幹事の高田紘一滋賀銀行頭取。一方、CSRの視点から「近江商人学入門」を刊行したばかりの末永國紀同志社大教授。伝統と現代、対比的ポジションにある両者にCSRを主題として対談していただいた。

(司会=蓮川博凡・フリーライター)

CSR: Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)

### モデルは滋賀らしさと簡明さ。 企業永続へ、自己診断の前向き投資

司会 ご存じのとおり、経済のグローバル化が進み、企業の社会的責任(CSR)が大きな関心事になってきています。そこに焦点を合わせて高田頭取から滋賀銀行におけるCSRの実践と、滋賀経済同友会が策定し、今春、公表した「滋賀CSRモデル」についてお話しいただき、続いて末永先生との対談に移ってもらいます。

高田 私ども滋賀銀行の情報誌「かけはし」に末永先生が長期にわたり近江商人について執筆、寄稿いただいたのをベースとし、今回、「近江商人学入門」との表題で、日本版CSRの視点から、いい本にまとめて刊行され、お喜び申します。

さて、企業の社会的責任といえますと二年前の七月十六日、グリーンस्पパンFRB(米連邦準備制度理事会)議長が非常にショッキングな発言をしております。それはインフレーション・ス・グリード(Infectious greed)、日本語では「感染する貪欲」と翻訳されました。これはアメリカのエンロンやワールドコムと

いう超有力企業が不正経理をやり、グローバルスタンダードとされるアメリカの企業経営の根幹をなす経営理念に大きな波紋を投げかけた不祥事に対して、世界経済の守護神たるグリーンズパンが警告を発したわけです。これは単に、海の向こうのことかなと思っていたのですが、とんでもない。日本でもいろいろな企業が、食品業はじめ自動車会社や最近では電力会社、食肉業者に至るまで悪徳商法に走っています。東西を問わず、企業経営の本質から離れていくような内外の企業スキャンダルが輩出し、今なお続いている状況のなかで、改めて「企業とは何なのか」。究極は社会とともに発展する、社会のために尽くすという企業理念が問われている。これが今日のCSRの原点です。

私は、滋賀経済同友会の代表幹事を務めて三年目ですが、かねてから個人の資格で入会されたメンバー三三〇人とともに、単に勉強をするだけでなく、共通のテーマで具体的なアクションを起こすという実践的な勉強をしたと思うっております。談論風発、全員参加型でいろいろな議論を交わし、共通のメッセージで共通の理念に基づくアクションを起こす。そういう活力のある経済同友会にしたというものが、私のロマンだったのです。企業の社会的責任とすることを身近なテーマとして提唱し、昨年一年間、有志が勉強をし、成果を今年四月、「滋賀CSRモデル」として公表しました。

策定に際して、狙いは2つありました。一つは、滋賀らしさ。もう一つはシンプルにということ。「滋賀らしさ」と「わかりやすく」を狙いにしたわけです。「滋賀らしさ」というのは、われわれは近江商人の先祖のDNAを持っているではないか。近江商人は世間的にはいい面ばかりではなくて、けなすような位置づけもされていますが、まじめな近江商人は商人道徳を見事に実現していた。その商人哲学というものは、端的に言えば「三方よし」に代表される、まさに当時のCSRです。商売の本質を考えた商人道徳を見事に確立し、それを掲げるだけではなくて、実践しておられる。事

共通のテーマで具体的なアクションを起こすという実践的な勉強をしたと思うっております。談論風発、全員参加型でいろいろな議論を交わし、共通のメッセージで共通の理念に基づくアクションを起こす。そういう活力のある経済同友会にしたというものが、私のロマンだったのです。企業の社会的責任とすることを身近なテーマとして提唱し、昨年一年間、有志が勉強をし、成果を今年四月、「滋賀CSRモデル」として公表しました。

策定に際して、狙いは2つありました。一つは、滋賀らしさ。もう一つはシンプルにということ。「滋賀らしさ」と「わかりやすく」を狙いにしたわけです。「滋賀らしさ」というのは、われわれは近江商人の先祖のDNAを持っているではないか。近江商人は世間的にはいい面ばかりではなくて、けなすような位置づけもされていますが、まじめな近江商人は商人道徳を見事に実現していた。その商人哲学というものは、端的に言えば「三方よし」に代表される、まさに当時のCSRです。商売の本質を考えた商人道徳を見事に確立し、それを掲げるだけではなくて、実践しておられる。事

# 近江商人学入門

CSRの源流「三方よし」  
An Introduction to the Study of Ohmi Merchants  
Originating the Concept of Corporate Social Responsibility

末永國紀著  
Tomonori Sueyoshi

末永國紀氏の最新刊「近江商人学入門」

業の永続的な発展のためには、三方よしの哲学を実践することが必要とされ、いろいろな家訓に残っている。これをひもとき、今日的な味つけをし、滋賀らしさを出そうというのが、滋賀モデルの考え方です。

二番目には、CSRのスタンダードとか、全国レベルでもいろいろ研究され、経済同友会でも全国組織は何百項目というアイテムで自己診断の働きかけもやっておられます。しかし、大企業はともかくも、それは余りにも地元の中堅、中小企業のみなさんには大上段に構えすぎている面があり、なかなか取りつきにくいのです。滋賀モデルは、できるだけ簡素化し簡略にし、結局、大項目を六項目、全部で五五項目に絞り込んでいます。アンケートの形で自己診断チェックリストを揃え、経営者

だけではなく社員も、身近なテーマとして自己診断し、さまざまな項目について4ランクで診断するよう作成しています。あくまでも自己診断で、気づいていただくのが第一です。そこから次のアクションにつながるば、とりあえず役割は果たせるという気持ちでつくりました。

もう一つ強調している点は、この問題は、事業、業種のいかんを問わず、また規模の大小をも問わないことです。それぞれのビジネスが何のためにあるのかということをよく考えていただき、そこからヒントを得て、自分の扱う商品、サービスが、いかに、究極は世間よし、お客さまに満足していただくことが極めて大事なことで、CSRは、どんな業種の中小企業であっても、やはり永続的な発展への投資である。前向きな必要条件であり、やっているかいないかによって、世間の評価が決まってくるわけです。

高田 ええ、そうです。そして次に、私は代表幹事として滋賀銀行のCSRを具体的に率先してやりたいと思っていました。

「クリーンバンクしがぎん」と唱え、滋賀銀行は地域の環境保全のため地域のみなさんとともに行動してきており、その成果がたまたま、いろいろなどころで評価されました。その調子に乗ったわけではありませんが、「クリーンバンクしがぎん」を「CSRの滋賀銀行」へ、さらに格上げしたく、今年四月、CSR委員会を立ち上げ、委員長を私が務めています。既存の組織「ふれあい環境室」をCSR室に模様替えし、歩きながら考えるぐらいの気持ちで、一つひとつ、具体的なアクションを打ち出していきたいというのが、私のいまの心境です。



CSRはどんな業種の中小企業であっても、永続的な発展への投資である

滋賀銀行頭取 高田 紘一 氏

## 近江商人の「三方よし」は今の経済日本の経営のあり方を先取りしているといえます

同志社大学経済学部教授 末永 國紀 氏



もう一つ、ご紹介しておきたいのは、滋賀銀行も昨年、創立七〇周年を迎えました。昭和八年に地元の二つの銀行が合併したのが滋賀銀行ですが、昭和四年、当時の頭取が普通の会社の社訓にあたる「行是」というのを作っています。それは「自分に厳しく、人には親切、社会に尽くす」。きわめてシンプルな三つの言葉ですが、言い替えば、売り手よし、買い手よし、世間よし、近江商人のまさに三方よしの哲学の滋賀銀行版なのです。この行是は、究極は滋賀銀行としてのCSRの神髄であると考えております。

### 「世間よし」の本義を再発見へ

**司会** 近江商人について長年研究されている末永先生に今のご感想とともに対談へ入ってゆきたいと思えます。

**末永** 私は今年の夏、社会人を対象にして二日間にわたって近江商人の集中講義を行いました。朝十時から夕方六時まで、2日間ぶっ続けで、最後に近江商人について、どんな感想をお持ちになりましたかという感想文を書いてもらいました。多くの方が近江商人のことをよく知らなかったのだが、それが今回よくわかった。自分の理解がこれまで浅くて、毀誉褒貶あい半ばしていたが、今回、認識を改めたというのが一つですね。

二番目は、三方よしのうちの一番大事なのはやっぱり、世間よしなんだと気づいたということですね。三番目は、講義の最後に滋賀CSRモデルを作られた滋賀経済同友会の動きを、具体的な運動の一環として紹介したのです。すると、受講生が感激していました。近江商人など古いものだと思っていたのだが、それが今日なお十分に有効であり、理想的なものであることが

分かった。しかも自分たちの先輩がやってきたことであり、単に経済活動だけではなくて、人間の生き方にかかわることなんだという感想を書いておられました。その上、今まで企業犯罪と言ってもいいような企業不祥事を、ずって見せられてきて、ものすごく絶望を感じていたが、滋賀経済同友会の試みに力強い思いがした、ものすごく興奮したと書いておられました。

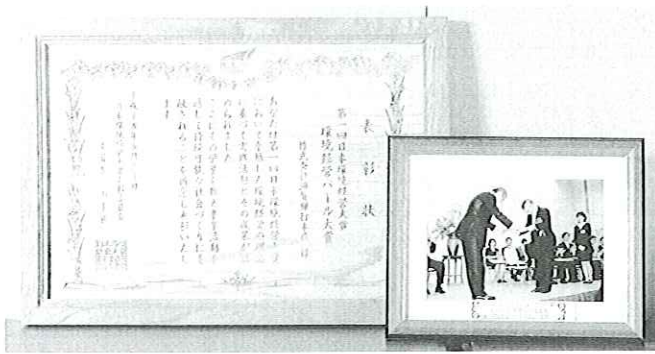
**高田** それは、社会人の方ですか。

**末永** ええ、そうです。受講の方は年齢も職業もさまざまです。そういう方々が講義を聴いた後、三方よしの理念は経済活動だけに留まらず、個人個人の間の生き方にもかかわっているのではないかと、共通して書かれており、私としても非常に本望でした。滋賀経済同友会の動きへの期待が大きいと言えますね。実践を通して具体的に普通の人の目に見えるような形で還元していただけると、もっと力づけることになるのではないかと思います。

**高田** 先生の今のお話で、私も

たいへん勇気づけられました。この取り組みを一過性のことにはしたくないのです。せっかく盛り上がりってきた熱気を、うまく引き継ぎ、華々しくなくとも、地道な活動でいいと思っています。一つ考えていますのは、三重県の前知事さんの北川正恭さんが、県主催で環境経営ということを全国に呼びかけられ、日本環境経営大賞を創設されました。環境省や経済産業省などもバックアップし、昨年の第一回表彰で、クリーンバンク滋賀銀行の環境経営が、第一回日本環境経営大賞をもらったのです。そこで滋賀ではCSRを企業経営の柱に据えて実際に行動しておられるところを表彰してはどうか。

國松県知事に呼びかけたら、関心を寄せられ、ご協力いただけることになり、今年、滋賀CSR大賞など表彰制度を設けたいと準備しております。多くの企業に応募していただき、第三者的な審査委員会で審査していただき、優秀な企業、あるいは優秀な活動をしておられるところを表彰する。まず小さく生んで、将来的に大きくしていければいいと思っています。



第1回日本環境経営大賞表彰状と表彰式での高田頌取

## 商いの伝統DNAが、 先取りで経済大国へ導く

**司会** 近江商人の伝統的DNAの特徴、歴史的な視点から見て、現在、動き出した滋賀CSRの今後に望みたいことは、どんなことでしょうか。

**末永** 実は、近江商人の三方よしは、彼らが商売の仕方そのものから考え出しているのです。その商売は、地縁・血縁のある自分の周囲での活動ではなく、国外の商売ですから、国外の人たちに認めてもらえるようなビジネスでなければいけなかったわけです。その心構えとして必然的に出てきたのが、三方よしに集約される経営理念だったのです。その商売のやり方は、今の日本の経営のあり方を先取りしていると言えます。

現在の日本は圧倒的に資源消費国ですが、それでも世界で一位を争う経済的レベルに達しているのは、原材料を輸入し、それに高度な技術開発力で付加価値をつけて輸出し、その差額で現在の日本人は豊かな生活ができています。そういう意味では、近江商人の開発した商売、特に「持下り商い」、つまり諸

国産物を回すという手法は、現在の日本の経済や経営のあり方を先取りしていたと言えます。特に世間よしとの言い方は、非常に珍しい事例ですし、そこに先進性があると思います。そういう滋賀県の企業人が独自のCSRモデルを作成し実践するということは、これからの経済人、企業人のあり方を率先して示すものと言えるのではないかと思います。

この核心の三方よしについては、古文書での表現はさまざまなんです。実にバラエティーに富んでいます。肝心の言いたいことは一つなのです。つまりは家業が続くこと、これに尽きます。そのため自分の家業のことでだけを考えるだけではだめで、相手のことも考えないと常に言っています。たとえば「売って悔やむ」と書き残した外村与左衛門の経営理念に見られるように、それが自分の家の仕事の根本の考え方だったので

**高田** あるいは「先義後利」という言葉にも心がひかれます。

義を先にし、利を後にする。末永 義を先に、ということば、要するに商売が先なのか、あるいは人としてのあり方を選ばないといけないのか。ぎりぎりの時があるわけですが、そういう時には永世の義を貫けと言っているのです。それを自分の家の基本的なスタンスとしているのです。

**高田** 三方よしもさることながら、もう一つ大事な三つのキーワード「始末、算用、才覚」という言葉が私は好きなんです。それを滋賀モデルのチェックリストに取り込んでいます。始末というのは、今日的には堅実経営です。算用は財務、つまり算盤、計算がしっかりしていなければいけませんということ。そして才覚は今風に言えば企業家精神、ベンチャースピリット。才覚を発揮し、知恵を出し、アイデアを発揮して新しい事業を興す。これが近江商人のベンチャースピリットにあつたわけ

で、これは大事にしていかなければいけないと思います。滋賀銀行も経済界あつての金融です。地元の経済人が元氣を持って、新しい感覚、新しい知恵を出して、才覚の精神を発揮していただくことが、県経済活性化の一番大事なことで考

え、それを応援するような仕組みや金融上のいろいろな取り組みをしていくのが地方銀行の世間よしにつながると思っ

ています。もう一つは、近江商人の商売は他国様で、あの江戸時代にも遥か遠方まで出かけて行っています。それはやはり進取の精神に富んでいなければできないことで、創意工夫とか、新しいことにチャレンジする精神が強かったと言えます。「野の花応援団」という中小企業に対する資金面でのバックアップに関連しますと、昔は今のよう

に金融制度が整備していません。その中で、どうやって企業を興すための資金とか運転資金を調達していたのか？ 近江商人は近江国外で活躍したの

## 滋賀のCSRモデル

利益は正直から生まれる  
 商人はまず顧客の心をつかみ、しかる後、われの立ちいくことを考えよ  
 買い占めと、売り惜しみで不当な利益を獲得してはならない  
 始末を第一に、勤勉に働く  
 われも利し、他人も利する、すなわち共存共栄にたつてその営業に専念することが商人の真骨頂

このような思想をもとに、かつての近江商人は強い競争力を身につけ、日本国内のみならずアジアやアメリカ大陸にもその事業範囲を拡大し、日本的経営の基礎を成した。社会に対する責任を果たすことは、こうした強い企業体質と、健全な競争力の源であると考え、滋賀経済同友会は、各分野の企業に対して、その規模や職種を問わず、歴史に学びつつ新しい発想を取り入れた柔軟な経営姿勢を促し、いまの時代にふさわしい企業体質の確立とCSRの実践を目指す。

(滋賀経済同友会資料より)

(注) 外村与左衛門  
 五個荘出身の近江商人  
 安政三年(一八五六)に作られた「心得書」に売って悔やむような取引を販売の極意とせよと記され、顧客満足を高めることこそ家業永続のもとになると指摘している。

ものの、本宅は近江に構えているんです。これが地域の近江国内の人たちにとって、非常に大きなデモンストレーション効果を与えたんです。いつの時代でも、若い人の中には、一丁やってやろうと思う人がいるものです。その人たちにとっては、身近に近江商人として成功した人の存在がものすごく刺激になるわけです。自分も同じように立身出世をしたい。そのためには起業資金が要りますが、その時には、どうしたかというところ、近所の馴染みのある豪商の家に頼みに行っているのです。

**高田** そうなんですか。

**末永** ええ。そういう時、豪商

たちは資金を出してやっていきます。もう一つは、途中で経営が思わしくないことがあるんですが、この場合も、ちゃんとアドバイスをしてやっていきます。また商売がどうしてもうまくいかず、借りたお金を返せなくなる時がありますが、貸した方の近江商人側が、債務を猶予するとか、免除しております。借用証文の中で出世証文とかお札証文というのが近江商人の家に残っています。お札証文というのは、返さなくていいという債務免除なのです。出世証文は、今は返さないけど、将来、自分が

立身出世した暁には返します。そのことは子々孫々に伝える、ということが書いてあるのです。ということは、貸した側からすれば、この人が出世するかどうかかわからないのですが、そういうものを担保にして債務履行を迫らないというやり方なのです。要するに、資金面で非常に緩和され、理解があったことが、近江という限られた地域からたくさんの商人が次々に出てきた、一つの社会的な基盤ではないかと思えます。もちろん、貸したお金が返ってこないというのは不合理ですよ。でもそれは、やはりお金の貸し借りです。きわめてプライベートルなこと、ほかの人には分からないことです。これはやはり、一種の陰徳善事の現れとしてとらえる以外には他の理由は考えられないと思います。

**高田** 陰徳善事というのは、非常にすばらしい哲学ですけれど

も、どんな場合も無条件に陰徳善事というのではなくて、やはり事業には、今もそうですが、晴れの時もあれば雨の時もある。雨の時、困った時に見放すか見放さないか、助けるか助けないかは、その事業をやっている当事者の信念というか、人物

み込んで信頼できるかということがベースにあつて、それなら助けてやる。出世払いでもいいよということなのでしょうね。現在の金融もそうなんです。不良債権があつたら切つて捨てるなんていう哲学は間違っていると思うのです。いかに竹中平蔵大臣が不良債権処理を進めると言われても、一事業経営者はいろいろ波風を受けるわけですから、仮に経営が厳しくなつた時でも、あるいは不良債権とわれわれが認識した時でも、事業の将来性がまだある、再生の可能性に信念を持てば、歯を食いしばつても、運命共同体、共存共栄で支えていく、これが地方銀行の社会的責任だと思つてやってきました。

**末永** ただその場合、お金を借りている経営者の資質といましようか、あるいは考え方といまいますか。

**高田** そうです。そこに共感を持たなければ話になりませんね。

**末永** ですから、お金を借りた側も、自分がどういうつもりで経営をしているのか。あるいは財務をオープンにする、ごまかさないといいことですね。金融側と誠実につきあうということが必要でしょうね。

**高田** 個別の事業経営者のみなさんとお取引をするときに、とかく悪い情報は隠されることがあります。人間の性かもしれませんが、企業は山あり谷ありですから、困った時は困った時に情報修正を出していただいて、お互いに腹を割ったコミユニケーションを通じて、次のステージに移るわけです。

**末永** 要するに、情報を共有するということですね。

**高田** 結局は、近江商人の話というのは、たとえば不良債権の問題であれ、腹を割った情報交換の点でも、四〇〇年前の哲学が、あたかも今日でも、そのまま生命を持つているのです。三方よしの哲学の掘ってきたところは、決して古色蒼然とした古い話ではなくて、現代でまさに気づいていただく値打ちのある話です。それをどのように生かすか、生かさなはいかは、経営する方、一人ひとりの自己責任の世界です。前向きにこれをとらえて、それからどうするかということを考えていただく。そのための手がかりを提供するものが、三方よしだということでしょうね。

三方よし理念講座のご案内

第10回 三方よし理念講座と比叡山散策

と き 平成16年11月14日(日) 10時から16時解散

ところ 大津市坂本生源寺 (最澄誕生之地)

講師 叡山学院教授 武覚超 氏

利他の心とビジネス

日本仏教発祥の地より

平成十三年より毎年開催してきました「三方よし理念講座」は多くの皆さまから好評を得ていますが、本年は「信仰とビジネス」をテーマに各地で開催することになりました。企業の不祥事が続出する中、ことのほか地域の人々のためになる商いを心掛けた近江商人の経営理念「三方よし」が見直されています。この理念の根底に潜む信仰心が「世間よし」という他地域の商人とは大きく異なった倫理観があったのです。近江商人の特異性の背景には、他国商いと異なる事情とともに、日本仏教文化発祥の地であったこと、そして熱心な近江人の信仰心によって育まれてきたのではないでしょう。

本年の講座では、「三方よし」の理念誕生の背景としての近江における信仰の心を学ぶこととしました。講座とともに各地の文化にふれる企画を計画しましたので多数のご参加をお待ち申し上げております。第十回の講座では、比叡山延暦寺開祖「最澄」の「忘己利他」という言葉の意味の解説を中心として、今企業にとって必要な宗教観を叡山学院の武覚超教授から伺います。会場は最澄誕生の地、生源寺です。

講演終了後、坂本ケーブルで比叡山山頂へ、根本中堂などを拝観して、雲母坂を徒歩で散策し、京都八瀬までケーブルで下山の予定です。

参加費 講演のみの場合 三、〇〇〇円

(十時から十三時) 昼食をご用意します。

比叡山散策の場合 五、五〇〇円

お問い合わせ、お申し込み先

NPO法人三方よし研究所

☎〇七四九一―二二一〇六二七  
☎〇七四九一―三三七七二〇

※次回以降、来年一月には永源寺で、二月には長浜大通寺での開催を予定しています。詳細は次号でご案内します。

●現代の近江商人 今秋五個荘に集合

「三方よし」から広がる健康なまちづくりシンポジウム開催

日時 平成十六年十一月二十日(土)十三時三〇分～十六時

場所 五個荘町生涯学習センター「あじさいホール」

入場 無料 参加ご希望者は十一月十日までにNPO法人三方よし研究所までお申し込みください

主催 東近江地域振興局地域健康福祉部

近江商人共通の経営理念である「三方よし」は、商いを行った地域社会を大事に思った「世間よし」がとりわけ他の地域との商人とは異なり、その考え方が今、注目されています。また一方で、近江商人の多くが、事業の永続をモットーとし、自らの健康管理を大切にしてきました。このたび、各地でご活躍の近江商人の方々をお招きしてそれぞれの近江商人観とともに健康づくりへのお考えをお話いただくこととなりました。近江八幡市、五個荘町、日野町ご出身の近江商人のお話しはきっとご満足いただけることと確信しています。今回のシンポジウムを契機に東近江地域で健康なまちづくり運動の輪がひろがることを期待しています。多数のご参加をお待ち申し上げます。

●パネリスト  
 <矢尾直秀氏> 寛延二年(一七四九)創業の秩父矢尾百貨店社長、初代は日野町出身。  
 <塚本喜左衛門氏> 京都が本社のツカキ商事株式会社社長 三方よし研究所会員。五個荘町出身の近江商人六代目。  
 <田中武夫氏> 東京都足立区で商店街活性化に活躍、近江八幡商業卒業後、東京で創業。地盤沈下が進む商店街におけるさまざまな活性化対策の実施が注目される。

●コーディネーター 植月百枝氏

お問い合わせ先  
 NPO法人三方よし研究所  
 〒五二二―〇〇〇四  
 彦根市鳥居本町六五五―一  
 ☎〇七四九一―二二一〇六二七  
 ☎〇七四九一―三三七七二〇  
 URL <http://www.sampoyoshi.org>  
 Eメール [info@sampoyoshi.org](mailto:info@sampoyoshi.org)  
 HPからもお申込みできます。

現代ビジネスマンのバイブル 末永國紀氏が上梓

『近江商人学入門—CSRの源流「三方よし」—』



近江商人研究の第一人者である同志社大学経済学部教授 末永國紀氏が、「かけはし」(滋賀銀行発行)に二年にわたる好評連載にさらに加筆追加された新刊書が10月1日全国一斉に発売されました。

近江商人が到達した経営理念「三方よし」は日本生え抜きのCSRであり、良き企業市民を目指す現代企業にとって示唆するところが大であると力説しています。

平易な語りで、近江商人の活動や経営理念の中に潜む現代的要素を抽出した現代ビジネスのバイブルとなっています。本書では、すでに紹介されている著名な近江商人商家の創業と同時に、企業衰退の原因にも鋭く言及している好書となっています。

B6判212頁 定価1260円(本体1200円)  
 発行所 サンライズ出版  
 TEL0749-22-0627  
 オンラインショップ  
<http://www.biwacity.com>  
 全国の書店にて発売中

近江商人関連資料館行事案内

10月18日(月)～11月19日(金)

企画展

「近江商人 中井源左衛門—新収資料を中心に—」

代表的な近江商人中井源左衛門家の近世・近代の古文書のほか屏風や商用筆笥などハラエテイに富んだ貴重な未公開資料を多数展示。中井源左衛門の経営活動から文化・社会活動の一端に触れる企画展となっている。

入場無料、土日祝日休館、午前九時三〇分～午後四時まで開館

●問い合わせ先 滋賀大学経済学部付属史料館

☎〇七四九—二七一—〇四六

9月18日(土)～11月28日(日)

秋季企画展 近江商人図鑑「商いの道具」

近江商人のシンボル・天秤棒のほか、商いにかかせないそばんや大福帳、行商に必需品の数々を展示。「残った以上は語りた」と生き残った道具たちが近江商人の物語りをつむぎます。

入館料大人二〇〇円、月曜日・祝日の翌日は休館。  
 午前九時三〇分～午後五時開館

●問い合わせ先 近江商人博物館

☎〇七四八—四八—七一四七

●定期購読ご希望のみなさまへ  
 情報紙「三方よし」は本年より年3回の発行を予定しています。本年度は12月末および3月末の発行です。定期購読をご希望の方は、送料など手数料相当分800円を添えてお申し込みください。なお三方よし研究所会員および賛助会員のみなさまには無償で送付いたします。

●NPO法人三方よし研究所  
 近江商人の経営理念である「三方よし」を現代社会の中で生活規範となるような様々な活動を行っています。詳細は下記事務局までお問い合わせ、またはホームページをご覧ください。情報紙「三方よし」の無償配布および各種講座への割引特典があります。  
 問い合わせ先 ☎0749-22-0627

てんびん棒

情報紙「三方よし」が2年ぶりによりやく復刊しました。本号では復刊を記念して、滋賀経済同友会代表幹事の高田紘一氏と同志社大学経済学部教授末永國紀氏の対談を行いました。本誌でその内容を詳細に記載しましたが、いかがでしたでしょうか。お話でもあったように、現在の企業にもとめられている姿勢がすでに三〇〇年以上も前に近江商人が実践していたことには深い感銘を覚えると同時にそのDNAを継承する私たちは新しい枠組みの中で独自性をもったチャレンジ精神を忘れてはならないと痛感した次第です。復刊を契機に今後、先人の理念の顕彰からさらに大きく飛躍して、個々の企業経営の中で、さらには社会のなかで「三方よし」理念を生かす道を見出す方向に進みたいと考えます。平成十四年三月末でAKINDO委員会は解散しましたが、NPO法人三方よし研究所では、過去十年の活動の継続を目的に設立しました。先人を顕彰すると同時に、現代社会における「三方よし」の普及に務めていきたいと考えております。本誌へのご意見ご感想もあわせてよろしくお願ひ申し上げます。  
 ★本誌は滋賀県商工労働部中小企業振興課よりの補助金を受けて発行しています。